

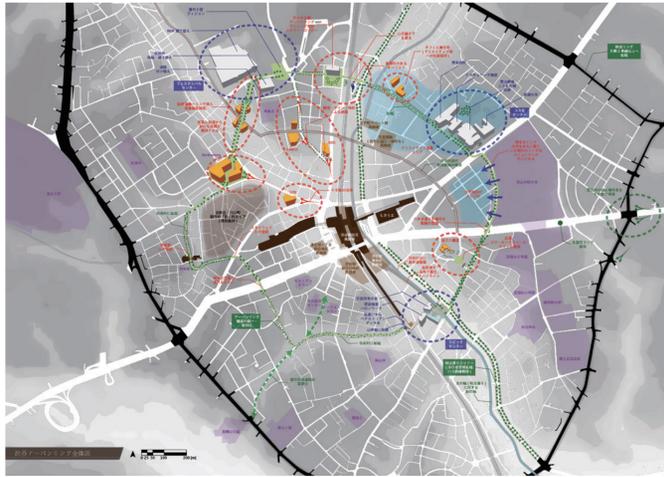


2013.6

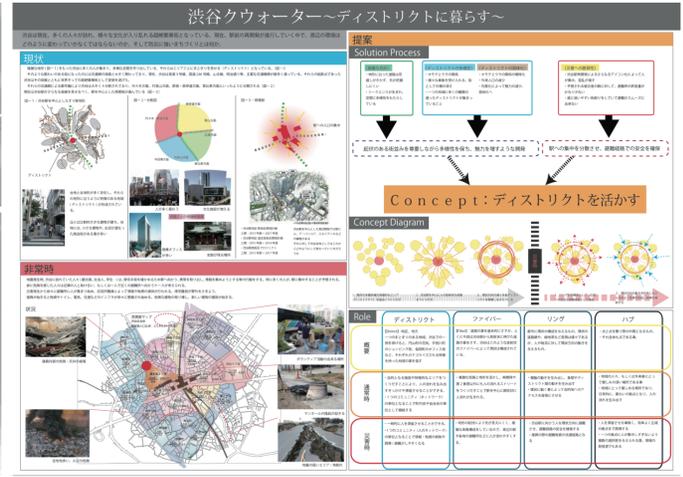
● 学部4年オムニバス演習 / 生き延びる渋谷

「近いうちに来ると言われている首都直下地震について、如何に備えるか？」今も変容の進む渋谷の中心市街地において、故・北沢猛先生の提案された環状の都市ネットワーク・アーバンリングを挿入することで、事前復興的に渋谷の防災性を高めることを目指した。

工学院大学・遠藤研究室との合同スタジオの実施（2013年度）



東大チーム：生きる、大地とともに



工学院チーム：渋谷クウォーター



繁華街の裏には駐車場が存在する

2014.5

- 渋谷プロジェクトの発足
- 渋谷消防署・インタビュー調査

渋谷PJの目指すもの

「超絶繁華街の災害に対する Spatial Planning を考える」をテーマに、インタビュー調査・空間調査・制度やマネジメント調査を行っている。ここで、Spatial Planning という言葉を使用するのは、物的環境のみでなく、社会的環境も含んだ空間を研究の射程に含むためである。

2 超絶繁華街の空間調査

日常と非日常を繋ぐことが防災の論点の一つであり、その視点から渋谷の超絶繁華街の空間資源を洗い出す。コンビニ、待合場所（広場）、街路、駐車場、、、などが防災インフラになりうるのではないかな？



渋谷駅周辺のコンビニの分布

空間資源を洗い出す

2014.7

- 渋谷区防災課・インタビュー調査
- 東急電鉄・インタビュー調査
- 道玄坂・宮益坂代表・インタビュー調査

1 インタビュー調査で実態を把握する

認識

・3.11を教訓にし、帰宅困難者対策を重要な課題と認識している。
・非常時の連携プラットフォームの必要性から、協議会を運営し対策に当たっている。

実態

・何を対策していいのかわからない。
・協議会の組織化以上の備えができていない。

2014.9

- 工学院大学・村上先生インタビュー調査

2014.11

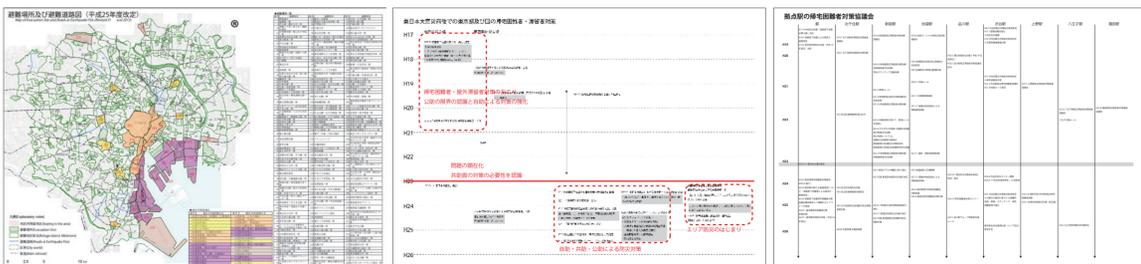
- 新宿区危機管理課インタビュー調査



(左) 渋谷区防災課インタビュー
(右) 商店会代表インタビュー

3 防災対応を支えるシステムの調査

特に帰宅困難者対策に焦点を当て、どのような制度やマネジメントが有効であるのかを探る。都内の多くが指定されている地区内残留地区も、大火の面だけで判断し、「思考停止」になってないだろうか？



(左) 地区内残留地区 (中) 帰宅困難者対策の流れ (右) 各駅ごとのマネジメントの仕組み

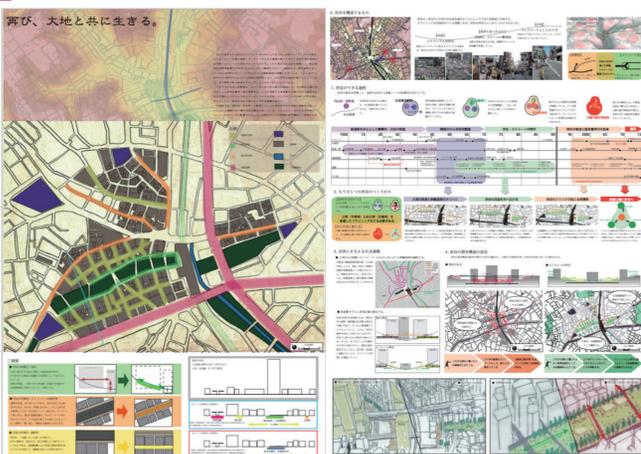
随時

- 空間調査
- システムの調査



「渋谷駅周辺地区における都市計画の提案について」より借用

2015 年度 の 取 り 組 み



建築学会コンペへの参加
上記リスクを踏まえた、
新たな都市像を検討し、
実際の空間への落とし込みを行った。

左図
作成したパネル



帰宅困難者対策訓練の様子

2015

- 空間提案の実施（コンペへの参加）

■2016年度の活動
月3-5開講「復興デザインスタジオ」にて深堀を行う。
参加希望者は
ak@td.t.u-tokyo.ac.jp(窪田)
までご連絡下さい。